

●は広領域、●は暖かい地域、●は寒い地域に生息していることを示す。

七重浜貝類図鑑 巻貝類



●ツメタガイ

Glossaulax didyma didyma (Roding, 1798)



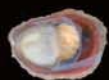
●モスソガイ

Volutharpa perryi Jay, 1856



●エゾタマガイ

Cryptonatica (Sulconatica) janthostomoides (Kuroda & Habe, 1949)



●クロタマキビ

Littorina (Neritrema) sitkana Philippi, 1846



●シマメノウフネガイ

Crepidula onyx Sowerby, 1814



●キサゴ

Umbonium (Suchium) costatum (Valenciennes, 1838)



●ヤツシロガイ

Tonna luteostoma (Küster, 1857)



●クボガイ

Chlorostoma lischkei Tapparone-Canefri, 1874



●オオヒタチオビ

Fulgoraria (Nipponomelon) magna Kuroda & Habe, 1950



●チヂミボラ

Nucella heyseana (Dunker, 1882)



●コロモガイ

Cancellaria (Sydaphera) spengleriana Deshayes, 1830



●ネジボラ

Japelion (Metajapelion) pericochlion (Schrenk, 1862)



●ヒメエゾボラ

Neptunea (Barbitonia) arthritica (Bernardi, 1857)



●ネジガイ

Gyroscala (Pomiscala) lamellose (Lamarck, 1822)

移入種シマメノウフネガイ

Crepidula onyx Sowerby, 1814



ヒメエゾボラに付着するシマメノウフネガイ



ヒメエゾボラからはぎ取られたシマメノウフネガイ

日本では、1968年7月に神奈川県三浦半島で初めて、シマメノウフネガイが確認された。本種はもともとカリフォルニア～チリの太平洋沿岸、大西洋南部沿岸に生息している種類である。日本への進入経路は不明であるが、船舶のバラスト水への幼生の混入、あるいは船底にフジツボ類とともに付着して、入ってきたと推定されている。最近になって、函館周辺まで分布が拡大してきたことがわかった。シマメノウフネガイは函館湾から食用として捕獲されるヒメエゾボラの貝殻表面にくっついて、ヒメエゾボラが出す糞などを食べている。ヒメエゾボラ漁の漁業者は、出荷の際にシマメノウフネガイをヒメエゾボラからはぎ取って出荷しなければならず、やっかいものとなっている。

高級寿司ねたトリガイ

Fulvia mutica (Reeve, 1844)



これまでに、七重浜に生息が確認されていないトリガイが、最近になって、七重浜付近に生息していることがわかった。トリガイは暖流系の貝類のなかまで、京都などでは高級寿司ネタとして、1個体あたり1,000円ほどの高値で取引されている。トリガイは七重浜の海岸に生きたまま多く打ち上げられることはあるが、七重浜のどの辺りに生息しているかは、まだわかっていない。

発行 北海道大学北方圏貝類研究会

<http://wsnr.web.fc2.com/wsnr/index.html>

